

念仏もうさるべし

― 撰取不捨 その四 ―

二月であります。皆さまにはそれぞれのご縁の中、阿弥陀さまのご本願に包まれて「なんまんだぶ、なんまんだぶ」とお念仏ご相続のことと存じます。

撰取不捨ということをお聞かせいただいております。

善導大師さまは「撰取不捨 故名阿弥陀」(撰取して捨てたまはざるがゆゑに阿弥陀と名づけたてまつる。)

阿弥陀さまというお名前と撰取不捨というおはたらきは全く同じであるとお教えくださるのであります。

前回、『仏説阿弥陀経』というお経さまの中に阿弥陀さまのお名前のおいわれが詳しく説かれていましてお聞かせをいただきました。

「光明無量(限りのない光のお徳)」と「寿命無量(限りのないいのち)」

のはたらき)「であります。このおはたらきは、日常のわれわれの言葉なら「い

つでも・どこでも」ということで、それを山本仏骨という和上さまは、「い

つでも」「どこでも」と聞いたら理屈をいう人はすぐに「それは何時ですか、それ

は何処のことですか?」と詮索するでしょう。そんな聞き方しておいたらいかん

のよ!」とおっしゃって、

「いつでも」「どこでも」と聞いたら「いま」「ここで」と安心させていた

いたらええんです」とお教えくださるのであります。

と、お聞かせをいただきました。

私には、「の」「いつでも」「どこでも」をお聞かせをいただくとき、もう一つ

忘れられないお言葉があります。桐溪順忍という和上さまであります。

『…阿弥陀さまのお名前のおいわれは、『仏説阿弥陀経』にあるとおり

光明無量、寿命無量ですわね。光明無量は「どこでも」。寿命無量は「いつ

も」ということですね。これはね、ご開山さま(親鸞聖人)がおつくり残しく

ださったさった「お正信偈」、正信念仏偈さまの最初の二句と合うてますわね。

帰命無量寿如来、無量寿だから、いつでも。南無不可思議光、不可思議光で、どこ

でも。これでエエンですわね。でもね、私にご開山さまにご意見申しあげるつも

りはないけれども、帰命無量寿如来・南無不可思議光。いつでも・どこでも。だけ

では阿弥陀さまのお救いのおはたらきは全部出てくださっておらんのではないかい

のお。』

とおっしゃってこう続けられます。

『阿弥陀さまのお救いのおはたらきはね、帰命無量寿如来・南無不可思議光。いつ

でも・どこでも。これで結構。これで結構だけれども、帰命無量寿如来・いつでも、

南無不可思議光・どこでも。そして“どんなものをも”というのがあるんでないん

だろうか…。阿弥陀さまが“どんなものをも”とおっしゃってくださいるので、

私が安心できるんでないんかいのお。』とお教えくださったのであります。

阿弥陀さまが、そのお救いのおはたらきを“いつでも・どこでも”おってください

るだけでは私とどう関係があるのかということにははっきりいたしません。

しかし、そうではなく“いつでも・どこでも”そして“どんなものをも”とおし

やってくださいるところに阿弥陀さまはすべての“いのち”つまりどんな状況の

私であっても、その私にはたらき続け、支え続け、育て続けてくださっておると

いうことが味わえるのであります。

“いつでも・どこでも・どんなものをも”これは私が“いつ・どこで・どんな

ふうになっても”何の問題もなく、私を救いきってくださいるおはたらきであ

るということでありましょう。

阿弥陀さまという如来さまがおられて、“いつでも・どこでも・どんなものをも

”救いきってくださいる。これで間違いではないのでしようが、親鸞聖人のお味わ

いからいえば“いつでも・どこでも・どんなものをも”救いきってくださいるおは

たき、今私に“なんまんだぶ、なんまんだぶ…”とお念仏させてくださっている

おはたらきを阿弥陀さまと申しあげる。ということでありましょう。阿弥陀さまの

お救いのはたらきは、「なもあみだぶつ」という阿弥陀さまのお名前そのものであ

りました。「撰取不捨 故名阿弥陀」であります。 合掌